

# 秋彼岸法要のつし案内

コロナ禍に慣れると言ったら可笑しい表現ですが、中々収束しないコロナに対して、制限をかけた生活に適応し慣れていく私たちがいます。檀信徒の皆さまには、残暑厳しい中、熱中症等にはお気を付けください。秋の彼岸の時期を迎え、左記の通り、秋の彼岸法要を厳修いたします。当日は手指消毒・マスク着用・座席位置等、「三密」にならぬよう配慮し、お勤めいたしますが、ご参拝にご不安のある方は、同封の振込用紙に回向名(〇〇家先祖代々または戒名)を記入してお送りくださいませ。丁重にご回向いたします。そしてコロナ収束を願い、平和な生活を皆さまと共に祈願いたします。

**日時 九月二十二日 (金曜日・お中日)**

**午後一時 お彼岸法要・ご先祖ご供養**  
**コロナ収束平和祈願**

**供養料** ……ご志納

◎当日お参りの方は、左記回向紙に、ご供養される霊名(戒名・〇〇家先祖代々等)と施主名(供養する方のお名前)をご記入の上、受付にお出しください。

(複数霊かかれても、供養料がその倍になることはありません。あくまでご志納です。)

ぼた餅とおはぎの色について

秋分の日は、法律で「祖先を敬い、亡くなった人をしのぶ日」と定められています。お彼岸は、極楽浄土を思い願って、仏道修行に励み、ご先祖さまを回向する期間と小さい頃から教えられていたので、この法律にある意味驚嘆しました。

あらためて日本国民として大切な事であります。

ところで、そのお彼岸の時に作るのが、春は「ぼた餅」、秋は「おはぎ」であります。名の由来には諸説ありますが、ここで注目すべきは、赤色にするために、赤小豆を使うことです。彼岸のぼた餅も赤色です。実はこの赤色に意味があるのです。古来、赤と白は黒に対する魔除けの力があるとされてきました。白い色の大根が供物として珍重されたのは、そのためです。同様に赤い色の食物も重要な供物だったのです。めでたい時に使用する紅白の弾幕も魔除けの意味があるのです。日本国の国旗も紅白ですが、魔除けの意味を含んでいるのかもしれないですね。お中日にご先祖さまを偲び、お念仏をお称えしましょう。

